

ヒロシマ平和映画祭2011 11/29～12/11

Different Voices ～世界にうごめく無数の、それぞれ特異な声たちに耳を澄ます～

ヒロシマ平和映画祭のここがすごい!!

見逃せない海外の新作ドキュメンタリー映画のジャパン・プレミアを実現!!

1プログラム

当日券 1000円

12月4日(日) 10:00-平和記念資料館メモリアルホールにて

監督来場

ジャパン・プレミア
(日本初公開)

『アトミックママ(Atomic Mom)』(米89分 監督 M.T.シルヴィア)

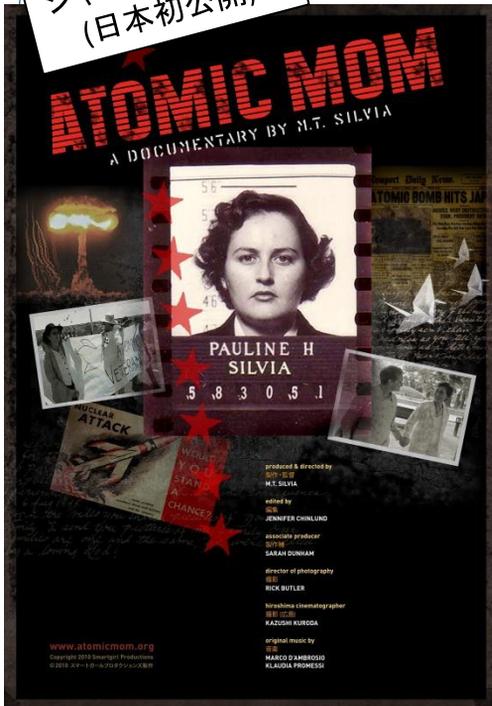
※広島フィルム・コミッション支援映画

上映(10:00-11:20) & 監督トークセッション(11:30-12:00)

原爆により人生を左右された日米二人の女性を軸とするドキュメンタリー映画。一人は第二次大戦後、科学者として核開発に携わったパウリーナ・シルヴィアさん。そしてもう一人は広島で被爆した岡田恵美子さん。

海軍の生物学者として携わったネバダ核実験場での経験からパウリーナは何十年を経た今も良心の呵責に苛まれていた。しかし、軍の機密であることから、守ってきた沈黙。

パウリーナが79歳にして初めて娘のM.T.シルヴィア(映画監督)に語った過去とは。原爆の犠牲者となった岡田さんとの交流とは。海外映画祭で多くの賞を受賞した話題作のジャパン・プレミア!!



12月4日(日) 13:00-広島国際青年会館研修室にて

ジャパン・プレミア
(日本初公開)

『忘れられた爆弾(The Forgotten Bomb)』

(米94分 監督 スチュアート・オヴァーベイ、バド・ライアン)

※広島フィルム・コミッション支援映画

原爆被害の実相を語る平和記念資料館。一方「核の威力」に焦点をあてる米国の博物館。一人のアメリカ人、バド・ライアンが湧き上がる疑問を追いかけて突き進む。広島平和文化センター理事長リーパー氏、広島・長崎の被爆証言から、元国務長官ジョージ・シュルツ、ジャーナリスト、科学者、米市民団体など広範囲な取材は圧巻。核兵器廃絶に向け、今必要とされる「変革の力」を力強く示す。

12月4日(日) 14:55-広島国際青年会館研修室にて

ジャパン・プレミア
(日本初公開)

『AUGUST』(独83分 監督 東美恵子)

※広島フィルム・コミッション支援映画

ドイツー広島、8月6日。ヒロシマをさまよひ、そして記憶する。ドイツ人小説家ヨハンナが8月のヒロシマを訪れる。彼女は「ヒロシマの記憶」をテーマに取材を始めるが、次第に母国ドイツの歴史と向き合い、そして母と訪れた70年代の広島を思い出してゆく...。女優ジルバーナ・クラパッチ演じるヨハンナが演じつつも、ドキュメンタリーとフィクションのはざ間をさまよう。



監督来場

12月4日(日) 16:35-17:55 広島国際青年会館研修室にて

『レイテに還りて』(フィリピン40分 監督 クム・ソニ)& パフォーマンス&トーク
クム・ソニ監督の祖父が日本兵として従軍したレイテ。当地に生きる老人たちの戦争の記憶が紡がれる。

ヒロシマ平和映画祭2011 11/29～12/11

Different Voices ～世界にうごめく無数の、それぞれ特異な声たちに耳を澄ます～

12月3日(土) 西区民文化センタースタジオ 《女の平和～序章》

10:00～11:55

『槌音』(日本23分 監督 大久保愉伊)

監督来場

2011年3月11日の東日本大震災の発生直後に被災地で撮影されたドキュメンタリー。岩手県大槌町出身の映像作家・大久保愉伊が、被災した故郷と家族を撮影。

『原発切抜帖』(日本45分 監督 土本典昭)

相川陽一氏(島根県中山間地域研究センター研究員)トーク&ディスカッション(40分)

広島原爆第1号に始まって、第五福竜丸の死の灰の事件を経て原子力発電所の事故に至るさまざまな事件報道の新聞の切り抜きから原発の恐ろしさを訴えるドキュメンタリー。

12:30～14:10

『生きていてよかった』(日本1956年 48分 監督 亀井文夫)

広島、長崎への原爆投下から10年にわたる被爆者たちの苦しみを、詳細な現地調査と2カ月に及ぶ現地撮影で記録した反核ドキュメンタリー。「死ぬことは苦しい」「生きていても苦しい」「でも生きていてよかった」の三部から構成。

『黒い花』(仏30分 監督 バティスト・ベセット) 監督来場

※広島フィルム・コミッション支援映画
フランス人監督が原民喜の「夏の花」から受けた衝撃を映像化。2009年広島で撮影。

ジャパン・プレミア
(日本初公開)

14:30～16:00 『外泊』(韓国73分 監督 キム・ミレ)

キム・ミレ 監督トークあり

韓国の「非正規職保護法」施行に伴う大量解雇という差別的扱いに怒り、立ち上がった女性労働者たちの闘いを描くドキュメンタリー。女性たちはマーケットに毛布を敷きつめ、家を離れ、「外泊(泊まり込み)」を始めた。食料を持ち寄り調理し、互いの思いを語り合う。歌い、踊り、泣き、笑い、労働闘争はいつしか家族的役割からの「外泊外伝」解放の場を生み出す。

16:20～18:00 『土方』(韓国89分 監督 キム・ミレ)

NoGaDaは日本語の「土方」。日本の植民地支配を受けた時から今も工事現場で肉体労働する人を意味する言葉。キム・ミレ監督の父は建築現場で働く型枠大工で、現場では「ノガダ(土方)」と呼ばれる。外為危機が始まった1997年冬、生活危機に直面した彼は、家を出て野宿者になると言い出した。ショックを受けた監督が撮り始めたのがきっかけとなったドキュメンタリー。

12月3日(土) 19:00～ ギャラリーZeroにて

車座シンポジウム 「ひろしまで語る『おんなの平和』」

相川陽一(同上)、松本麻里(東京砂場プロジェクト@新宿、フェミニズム批評)、後藤愛由美(大阪府立大大学院、オキュパイ運動下のNYへ。「原爆の傷跡」NY上映に尽力)、キム・ミレ(「外泊」「土方」監督(韓国))、M.T. Silvia (「Atomic Mom」監督(アメリカ))、その他

その他プログラム多数 お問い合わせ: ヒロシマ平和映画祭 TEL 080-6306-8689 <http://hpff2011.untokosho.com>

当日券 1000円(1プログラム) 一日通し券 3000円(12月3日西区民文化センタースタジオで上映前に発売・当日のみ使用可) フリーパス 一万円(映像文化ライブラリー以外の、全有料プログラム上映会場でご使用できます。)

※学生はすべて半額となります。